



# 図書日和

2017年12月号

鹿児島中央高等学校図書館

平成29年12月15日発行

## 先生お薦めの一冊

### 『じぶん・この不思議な存在』

鷲田 清一 著（講談社現代新書）

国語科 板木 正一 先生

人間とはどのような存在か、自分自身はどのように生きるべきか、客観的な視点と、自分を分析する視点との両面から探っていく。哲学の目で「私」を見つめる。「私」って誰?「自分」って何?本当の「自分」ってどこかにいるの?自分固有の個性を自分の内面に求める常識を疑って、他者との関係の中に自分の姿を描き出すことを提案している。哲学書にもかかわらず、とてもわかりやすく書かれている、高校生にお薦めの名著。

本書の問い合わせはシンプルだ。それは「私って誰?」「自分で何?」である。

私たちは、一人ひとりが世界に一つだけの存在だと教えられてきた。「オンリー・ワン」の個性という表現もある。一昔前流行った「自分探し」という言葉も、探せばどこかに「自分の個性」があるという前提に立っていた。

しかし、本当にそんなものがあるのだろうか。自分の中を探せばどこかに「自分」らしさがあるというの、幻想である。私たちは長い間、「自分らしく」あることばかり目指してきた。しかし、逆に「自分らしく」あらねばならないという「強迫観念」から自由になる方法について考えてみることも大切だ。このあたりの柔らかい発想が鷲田らしい。

自分の中を探しても「自分」は見当たらぬ、アイデンティティは自己に語って聞かせるフィクションに過ぎないのなら、「自分」とは一体何なのだろう。鷲田は“他者の他者であること”にその契機を見出す。他者にとって意味のある他者たりえているかが、私たちが自分というものを感じられるかどうかを決めるというわけだ。親に「この子とはそりが合わない」と言わせたら勝ちだ。親は子どもを別の存在として認めたのだから。時には恨まれ、気色悪がられてもいい。他人にとってひとりの確実な他者たりうるのだから。

## 先輩からの贈り物が届きました！

本校9期の佐野芳文様からおしゃれな展示棚を頂きました。雑誌を並べるのにちょうどいい大きさです。さっそく雑誌を並べてみると、これまでギュウギュウに並んでいた雑誌がすっきり収まりました。図書館入り口が「わくわくした空間」に変身しました。この展示棚は、これからも本校図書館の象徴として、後輩たちに受け継がれて行くことでしょう。

図書館には先輩方から贈られた本棚や多くの蔵書があります。これは先輩方が遠くから母校のことを気に掛けてくださっている証でしょう。先輩方のお気持ちに心から感謝して、この図書館で、心に残る本を見つけてください。

## 11月の貸出統計

1年101冊 2年37冊 3年109冊 合計247冊



学年 組	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	6	2	9	30	14	26	4	10	0	4	0	2	17	3	10	1	0	9	0	9	46	5	35	5
合計	101冊								37冊								109冊							

もうすぐ冬休みです。もっともっと読書を楽しみましょう。普段あまり読まない哲学書などにも挑戦してみましょう！

### 『さよなら、田中さん』 鈴木るりか 著 (小学館)

主人公の田中花実は小学6年生。悲しいことがあつたら、とりあえずご飯を食べる！大らかな主人公と母親の心温まるお話。作者は中学2年生。

### 『米澤穂信と古典部』 米澤穂信 著 (角川書店)

これを読めば、米澤穂信の全てが分かります。書き下ろしの短編も収められています。米澤ファン待望の書です！

### 『戦の国』 沖方丁 著 (講談社)

戦国の世を生きた信長、秀吉、家康らの思いを描く連作歴史小説。彼らは何のために戦ったのだろうか。

### 『校閲記者の目』 每日新聞校閲グループ 編 (毎日新聞出版)

発砲ワイン・・・危険ではないか！！(正・発泡ワイン)

蜂蜜饅頭・・・一体何が入っているのだ！(正・蜂蜜饅頭)

「家にはろくなものがない」「家にはろくにものがない」・・・意味が全く違います。  
新聞の校閲、毎日毎日とても大変そうですが、なかなか興味深い仕事です。



### 『明治乙女物語』 滝沢志郎 著 (文芸春秋)

鹿鳴館時代は「女には学問など必要ない・・・」というような世相でした。  
そのような世相に抵抗しながら高等師範学校で学ぶ「咲」と「夏」の物語です。  
今年度松本清張賞受賞作品！

### 『無敵の二人』 中村航 著 (文芸春秋)

ボクシング元ライトフライ級王者・畠山。その畠山を北海道で育てた女性トレーナー・赤坂との感動の物語。  
実話です。

新書『人口減少時代の土地問題』 吉原祥子 著 (中央公論新社)

『経済成長なき幸福国家論』 平田オリザ・藻谷浩介 著 (毎日新聞出版)

『「なんとかする」子どもの貧困』 湯浅誠 著 (角川書店)

『町を住みこなす—超高齢社会の居場所づくり』 大月敏雄 著 (岩波書店)

『外国人労働者をどう受けいれるか 「安い労働力」から「戦力」へ』 NHK取材班 編 (日本放送出版)

希望する学部学科に関する  
新書は積極的に読んでおこう！

### 『昔話法廷 Season 2』 NHK Eテレ「昔話法廷」制作班 編 (金の星社)

友人のキリギリスを見放したアリは保護責任者遺棄致死罪で有罪？それとも無罪？  
舌を切られたすずめが、おばあさんに渡したつづらの中には毒蛇が・・・。すずめに  
殺意はあったのか？さてさて読者のあなたは、どう裁きますか？



### 『宇宙はなぜ「暗い」のか?』 津村耕司 著 (ペレ出版)

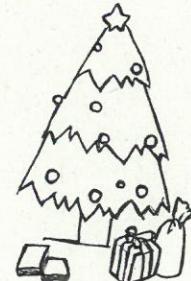
宇宙についての基礎知識が学べます。宇宙の神秘が見えてきます！

### 『西郷どん 前編・後編』 林真理子 著 (角川書店) テレビより先に読む！

### 『己を、奮い立たせる言葉。』 岸勇希 著 (幻冬舎)

“やる気になるんじゃなくて、やれよ”

岸さんの言葉です。その通りだと思いませんか？



12/29 (金) ~1/3 (水) は休館します。

来年も素敵な本との出会いがありますように！

